

# タンゲブの栽培に関する研究

企画管理班 漢那 賢作

## 1. はじめに

沖縄の森林は多様な植物資源の宝庫である。沖縄県森林資源研究センターでは、林業および山村地域の振興を促進するため、未利用資源植物の中から食品価値および機能性を有するタンゲブに着目し、新たな特用林産物の生産に資することを目的として2015年度から2017年度まで「タンゲブの育苗栽培技術の開発」の研究を行ってきた。

本研究は、これらの研究結果等を踏まえ、今回は鉢植えでの施肥栽培試験、遮熱ネットを用いた栽培試験を行ったので報告する。

## 2. 方法

鉢植えでの施肥栽培試験は、本センターのガラス室で行った。供試したタンゲブ苗は、2019年4月18日にセルトレーに播種し（写真-1）、6月24日に10号鉢に定植（写真-2）した後、7月2日にCDUの施肥を行った（表-1）。定植した鉢は日光等の様々な環境要因を極力避けるためランダムに配置した（図-1）。茎長、茎の分枝数調査は、6月24日から2020年3月25日まで1月毎に行い、茎長については最も長い茎の長さを測定した。また、収穫した果実の個数および重量調査は、結実が見られた12月11日から2020年3月24日まで2週間毎に行った。

遮熱ネットを用いた栽培試験は、本センター内の畝立てした圃場で行った。供試したタンゲブ苗は、鉢植えでの施肥栽培試験と同じセルトレーに播種した苗を、7月10日に定植し（図-2）翌日に遮熱ネットで覆った（写真-3）。茎長、茎の分枝数調査は、7月29日から2020年3月25日まで1月毎に行い、茎長については最も長い茎の長さを測定した。また、収穫した果実の個数および重量調査は、結実が見られた12月12日から2020年3月25日まで2週間毎に行った。

## 3. 結果

鉢植えでの施肥栽培試験は、活着率は100%で、平均茎長は最小で84.8cm、最長で103.3cm、平均茎本数は最小で6.1本、最高で14.4本、果実個数は最小で26個、最高で236個、果実重量は最小で14.7g、最高で161.5gであった（表-2）。

遮熱ネットを用いた栽培試験は、活着率は80%で、平均茎長は47.4cm、平均茎本数は15.8本、活着株当たりの平均果実個数は43個、活着株当たりの平均果実重量は30.9gであった（表-3）。



写真-1 セルトレー



写真-2 10号鉢

表-1 CDU 施肥試験

0g (無処理区)	5g	10g	30g	50g
10鉢	10鉢	10鉢	10鉢	10鉢

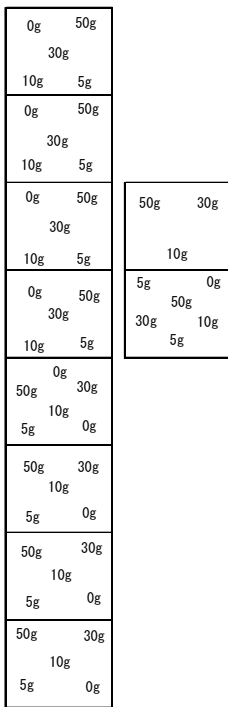


図-1 10号鉢試験区配置図

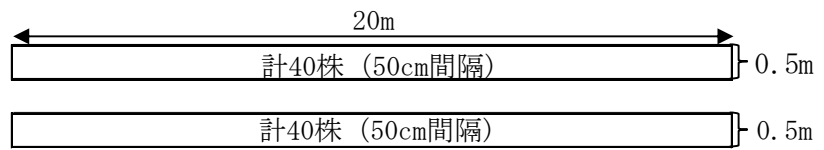


図-2 遮熱ネット試験区配置図



写真-3 遮熱ネット栽培試験

表-2 鉢植え施肥栽培試験結果

施肥量(g)	植栽鉢数	活着鉢数	活着率(%)	平均茎長(cm)	平均基本数	果実個数	果実重量(g)
無処理区	10	10	100	95.5	6.1	26	14.7
5g	10	10	100	91.8	10.4	134	89.1
10g	10	10	100	86.5	14.4	236	161.5
30g	10	10	100	103.3	13.5	198	142.8
50g	10	10	100	84.8	11.1	176	99.5

表-3 遮熱ネット栽培試験結果

植栽株数	活着株数	活着率(%)	平均茎長(cm)	平均基本数	活着株当たりの 平均果実個数	活着株当たりの 平均果実重量(g)
80	64	80	47.4	15.8	43	30.9